



地方独立行政法人

栃木県立がんセンター

Tohigi Cancer Center

9 月号
2025



表紙写真：ゲノムセンターのスタッフ

がんセンターだより

あいの こころ

Philosophy
Art
Humanity

- P.1-2 参加イベントのご報告・産学連携研究の新拠点開設
- P.3-4 あなたと家族を守る「がんと遺伝」のはなし
- P.5 リンパ浮腫専門資格を持つ看護師が快挙、全国学会賞受賞
- P.6 セカンドオピニオンという選択肢



とちまるくん © 栃木県

ふれあい看護体験を開催しました — 将来の地域医療を支える芽 —

5月30日、高校生16名が来院し、病棟での看護体験を行いました。スクラブを着用し、看護師の案内のもと、ベッドの操作や医療器具の取り扱いなどを体験しました。緊張しながらも真剣に取り組み、笑顔も見られるなど、看護の魅力に触れた充実した時間となりました。



「県民の日」イベントに出展しました — 県民の健康意識と地域の力 —

6月15日、栃木県庁で行われた県民の日イベントに出展し、看護師によるがん相談や健康チェックを実施しました。ブースには約40名の方が訪れ、検診や予防の大切さを伝える良い機会となりました。地域の皆さまと健康について向き合う、大切な時間となりました。



市民公開講座を開催しました — わかることで変わる未来 —

7月12日に開催した市民公開講座では、「大腸がん」「最新のロボット手術」「遺伝子検査」について講演し、58名の方が参加しました。

講演 1

「ロボット手術と遺伝情報の活用による最新の大腸がん治療」

講師：宮倉 安幸(栃木県立がんセンター 大腸骨盤外科科長 / がん予防・遺伝カウンセリング科科長)

講演 2

「遺伝の悩みと遺伝カウンセリング」

講師：赤間 孝典(栃木県立がんセンター 認定遺伝カウンセラー)

身近な医療の話題を通じて、地域の皆さまががん予防への理解を深める機会となりました。今後も、正しい知識をわかりやすくお伝えしてまいります。



未来のがん医療を EXPO で体感 ～世界初の治療を栃木から～

放射線治療品質保証室 ゼネラルマネージャー 伊藤 憲一

先日、関西万博の会場で開催された医療イベント「EXPO2025 Elekta Day」に、座長として参加してまいりました。会場は、木の温もりにあふれるノルディックパビリオンで、未来の放射線治療をリードする日本中の著名な先生方が集い、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」と響き合うように、熱心な議論が交わされました。

イベントの大きな議題は、患者さん一人ひとりに合わせた「個別化医療」でした。その最適な放射線治療の形が、治療のたびに照射計画を最適化する「適応放射線治療(ART)」です。当センターでは、このARTを最新装置「エレクタハーモニー」を用いて世界で初めて実施しました。がんの日々の変化に高精度で対応し副作用の低減も目指す、まさに未来の医療を実践しています。

今回の貴重な経験を、当センターが誇る世界初の技術と融合させ、地域の皆様へ最善のがん治療を提供できるよう、職員一同さらに努力してまいります。



産学連携研究の新拠点

●「栃木県立がんセンターリサーチパーク」開設

2025年8月5日、栃木県立がんセンター敷地内の研究棟4階に、「栃木県立がんセンターリサーチパーク」が開設されました。本施設は、医療関連企業や大学・研究機関などに研究室を提供し、当センターの医療者と連携しながら新たな医療関連の研究・開発を促進する栃木県初の産学連携研究専門施設です。開設式典当日は、当センターの医療者・研究者・職員らに加え、下野新聞の取材班が衆参し、当センター総務課六角真理子氏揮毫の看板を尾澤巖理事長、尾島英知研究所副研究所長が設置して、施設の開設を記念しました。その後、関係者への内覧会が行われました。



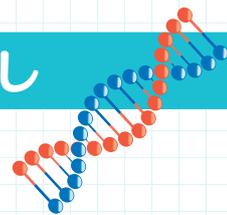
●実臨床に近い場所での研究環境

栃木県立がんセンターリサーチパークは、14㎡～60㎡の6室の研究スペースに加え、共用ラウンジを備えた交流促進型の設計が特徴です。当センター敷地内に開設されたことから、企業や研究者と当センターの医師をはじめとする多職種の専門家が密に連携することが可能です。臨床情報や医療資源にとどまらず、当センターが運営する「栃木がんバイオバンク」を通じた信頼性の高い研究試料を活用して頂くことで、他に類をみない立体的な研究環境が構築でき、がん診療・治療に有用な研究・開発の可能性を無限大に高めます。研究所副所長の尾島英知医師（病理診断科科长）は、「地域の企業や研究者と私もスタッフとの連携研究により、今までにない相乗効果が生まれ、新しい医療の芽が育つことを期待している」と語っています。

●地域と共に、未来の医療を育む場所へ

栃木県立がんセンターリサーチパークは、多様な専門性が出会い、共に歩むための革新的な施設です。同時に、様々な連携研究は人材育成にも繋がることから、次世代を担う多くの研究者や医療人が生まれることが期待されます。本施設は、地域とともに未来の医療を切り拓く北関東の拠点となることを目指しています。

あなたと家族を守る「がんと遺伝」のはなし



“遺伝性のがん”って知っていますか？

がんは「遺伝子の病気」とも言われ、体の“設計図”である遺伝子に傷がつくことで起こります。多くのがんは、加齢や生活習慣などによって偶然に起こるものですが、中には、生まれつき遺伝子に変化(変異)を持っていることで、がんになりやすい体質の方もいます。これが「遺伝性のがん」です。

たとえば、乳がんや卵巣がん、大腸がんなどには、家族に同じがんを経験した方が複数いたり、若くして発症したりするケースがあります。これは、特定の遺伝子に異常があることで、がんのリスクが高まるためです。

実際、ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんは、遺伝子検査で乳がんや卵巣がんになりやすい体質であることが分かり、がんを発症する前に予防的な手術を受けたことで注目を集めました。海外では、遺伝性のがんを早期に見つけ、健康なうちに検査や対策を行う流れが広がっています。ところが日本では、こうした検査が保険適用外となることも多く、自費で高額な費用がかかる場合があります。また「まだ病気じゃないのに手術をする」ことへの不安や戸惑いの声も少なくありません。



そこで当センターでは、遺伝性のがんに関する正しい情報を提供し、家族単位でがんに備えるという新しい選択肢を知ってもらうための取り組みを進めています。遺伝子検査を受けるべきかどうかは一人ひとり異なるため、遺伝の専門職と一緒にじっくり話し合いながら進めていくことが大切です。

「うちはがん家系かも?」「若くしてがんになった家族がいる」そんな不安を感じたときは、当院通院中の方は外来主治医に、当院通院歴がない方はかかりつけ医に「がん予防・遺伝カウンセリング科」への紹介を依頼ください。受診方法がわからない方や、外来受診に迷いがある方、遺伝性のがんについて気になることがある方は、当センターのゲノムセンターまでお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

ゲノムセンター直通電話
028-611-5480

ゲノムセンター
ホームページ▶



サイド
コラム

遺伝子検査といっても、 実は2つあります

「遺伝子検査」という言葉はよく耳にしますが、がん治療の現場でも使われており、「どの抗がん剤が効きやすいか」などを調べる遺伝子検査を思い浮かべる方も多いかもしれません。これは、がんになった後にその性質を詳しく調べるための検査です。

一方、今回ご紹介しているのは、がんになる前に「がんになりやすい体質かどうか」を調べるための遺伝学的検査です。こちらは「遺伝性のがんのリスクを知る」ことが目的であり、本人だけでなく家族にとっても大切な情報になります。

同じ「遺伝子検査」という言葉でも、目的やタイミングがまったく異なります。正しい理解と区別が必要です。



知っておきたい、遺伝性のがん Q&A

Q1 「遺伝性のがん」って例えばどんなものがありますか？

A1 「遺伝性のがん」とは、受精時に卵子や精子の中にあった遺伝子の変異によって引き起こされるものです。主な例として、以下のようなものがあります。

- **遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)**：乳がん、卵巣がん、膵臓がん、前立腺がんなどのリスクが高まる状態です。これは、体の設計図となる BRCA1 や BRCA2 という遺伝子の変異が関連しています。

- **リンチ症候群**：大腸がん、子宮体がん、胃がん、膵臓がんなどのリスクが高まる状態です。これは、ミスマッチ修復遺伝子(DNAのコピーミスを見つけて修正する“校正役”の遺伝子)に変異があることが原因で起こります。この校正役の遺伝子には、MLH1、MSH2、MSH6、PMS2 などの種類があります。

※遺伝子に変異があっても、必ずしもがんを発症するとは限りません

Q2 遺伝性のがんはどのようなケースで疑われますか？

A2 「血縁者内に同じ種類のがんを発症した人が複数人いる」「若くしてがんになった」「1人で複数回がんを経験した」などのケースでは、「遺伝性のがん」の可能性を疑います。

Q3 がんセンターで行っている遺伝子検査にはどのような種類がありますか？

A3 以下のような種類があります。

- ①がん細胞を調べる遺伝子検査(治療薬の選択などに活用)

- ②正常な細胞を調べる遺伝学的検査(がんの発症リスクの把握に活用)

特に②の検査は、がんの早期発見や予防的治療を考えるうえで重要な情報となります。

Q4 「遺伝性のがん」に関する検査はどのような方法で行いますか？

A4 多くの場合、血液を採取して検査を行います。ただし、検査の前に目的やメリット・限界、結果の影響についてよく理解しておくことが重要となります。そのため、がんの発症リスクを調べる遺伝学的検査は、遺伝カウンセリングの一環として実施されます。

Q5 「遺伝性のがん」の体質が分かった場合、がんを予防できますか？

A5 がん予防には以下の3つの段階があります。

- 一次予防：生活習慣の改善

- 二次予防：定期的な検診による早期発見

- 三次予防：がん発症後の再発予防や QOL 向上

まずは一次予防でがんの発症リスクを減らすことも大切です。また遺伝学的検査で「遺伝性のがん」の体質が分かった場合には、二次予防の強化が可能となります。さらに、2020年4月に『遺伝性乳がん卵巣がん』に対し、予防的に卵巣や乳房を摘出する手術が保険適用となり、がんの発症を未然に防ぐ選択肢も広がっています。

Q6 遺伝学的検査や手術は保険適用されますか？

A6 現在のところ、すべての検査や手術が保険適用というわけではありません。保険が適用される条件もありますが、自費になるケースもあります。

Q7 遺伝学的検査の結果は血縁者に影響しますか？

A7 A7：「遺伝性のがん」のリスクは血縁者にも関係することがあります。そのため、検査結果はご家族にとっても大切な情報となる場合があります。カウンセリングの中で、ご家族への情報共有についても一緒に考えていきます。

Q8 相談や検査はどこで受けられますか？

A8 A8：栃木県立がんセンターでは、遺伝の相談や検査を専門とする「がん予防・遺伝カウンセリング科」を開設しています。当院通院中の方は外来主治医に、通院歴がない方はかかりつけ医に「がん予防・遺伝カウンセリング科」への紹介をご依頼ください。また、「受診方法がわからない」「受診を迷っている」「遺伝性のがんについて不安がる」という方は、ゲノムセンターまでお問合せください。

圧迫療法の新しい取り組みが評価 奥田看護師が全国学会で受賞

当センター看護部の奥田奈々恵看護師が、2025年7月に開催された第49回日本静脈学会総会において、第12回「平井圧迫療法賞」を受賞しました。この賞は、静脈やリンパの疾患に対する圧迫療法の分野で、特に優れた臨床実践や研究成果に与えられるものです。

受賞の対象となったのは、「UNNA BOOT (ウナブーツ)で行う周術期圧迫療法の新たな取り組み」。形成外科と連携し、手術後のリンパ浮腫ケアにウナブーツ（酸化亜鉛軟膏を含む包帯）を用いた圧迫療法を導入し、その有用性を実際の臨床を通じて検証した取り組みが高く評価されました。

ウナブーツは、静脈うっ滞性潰瘍（血流が滞ることで足にできる慢性的な傷）の治療に用いられる方法で、海外では一定の実績がありますが、リンパ浮腫への応用は国内ではまだ一般的とはいえません。

奥田看護師がウナブーツを初めて目にしたのは、数年前に参加したドイツでの研修でした。実際に導入を考慮ようになったのは、帰国後、臨床経験を積む中で、LVA（リンパの流れを助けるために、細いリンパ管と静脈をつなぐ手術）後の圧迫療法として筋ポンプ作用を高め、より効果的なケアにつながるのではと着想を得たことがきっかけでした。

導入にあたっては、形成外科の大西文夫医師（現・埼玉医科大学総合医療センター）と継続的に連携し、日々の診療の中で治療方針を話し合いながら、方法を具体的に検討。圧のかけ方、巻き直しのタイミング、関節可動域への配慮など、患者ごとの状況に応じて工夫を重ねてきました。

「大西先生は、私の突拍子のないひらめきにも真剣に向き合い、実現に向けて背中を押してくださる存在です。技術を信じてくれるので、自信を持って実践に踏み出すことができました」と奥田看護師は語ります。

こうした実践の背景には、当センターでリンパ浮腫診療に取り組んできた大西医師との継続的な協働がありました。奥田看護師がリンパ浮腫療法士の資格を取得した際にも、前・栃木県立がんセンター理事長の菱沼正一医師とともに、リンパ浮腫ケアの導入を後押ししてくれたといいます。

今回の学会では、全国から多数の演題が寄せられ、その中から選出された7演題の中で、奥田看護師の発表が「平井圧迫療法賞」を受賞しました。奥田看護師は「この賞はいつか取りたいと目標にしていたので、大きな励みになりました」と受賞の喜びを語りました。昨年も、原著論文が学会誌『静脈学』で優秀論文賞を受賞しており、臨床と研究の両面での取り組みが注目を集めています。

「リンパ浮腫ケアは専門性が高く、学校教育だけでは習得しづらい技術も多い分野です。今後は現場での経験や知識を共有し、病院全体としてより良いケアを提供していきたいと考えています」と話します。

当センターでは、こうした取り組みを通じて、看護師の専門性の向上を支援し、患者さんの生活の質（QOL）の向上に引き続き貢献してまいります。



菱沼名誉理事長からのコメント

昨年の日本静脈学会優秀賞に続き、2年連続の受賞おめでとうございます。「平井圧迫療法賞」は非常にハードルが高く、リンパ浮腫を扱う医療者にとって憧れの賞と聞きました。まさに「あっぱれ」の一言に尽きます。リンパ浮腫ケア外来に通う患者さんは、私と尾澤理事長が担当する同日のがん診療総合外来も受診することになっていますが、その際に患者さんの口から出る言葉には、奥田看護師に対する絶大な信頼がにじみ出ています。この信頼にこたえる意味でも、日本のみならず世界をリードするような研究成果を今後も出し続けてください。



左：菱沼医師 右：大西医師
中央：奥田看護師



当センターのリンパ浮腫診療については、公式 YouTube でご紹介しています。
右の QR コードからぜひご覧ください。▶



納得して治療を選ぶために

“もうひとつの意見”
という安心

「今の治療、このままで大丈夫かな？」

「他に治療法があるのではないかな？」



そんなふとした不安を
感じたことはありませんか？

医療には、“もう一つの選択肢”があることも少なくありません。そんなときに活用できるのが「セカンドオピニオン」です。そんな不安に寄り添う「セカンドオピニオン」という方法をご紹介します。

▶ セカンドオピニオンとは？

セカンドオピニオンとは、現在の担当医以外の医師に診断内容や治療法について相談することです。「担当医の意見を疑う」ということではなく、自分自身が納得して治療に取り組むための、前向きな選択肢のひとつです。セカンドオピニオンについては、転院と結びつけて考えられることもあるようですが、実際には、今の主治医のもとで治療を継続することを前提とした制度です。あくまで「判断材料を増やし、納得のうえで治療を選ぶための機会」です。安心してご利用いただけます。



こんなときに
活用されています

- 他に治療の選択肢があるか知りたい
- 現在の治療方針をよりよく理解したい
- 療を始める前に、別の医師の意見も聞いてみたい

▶ 当センターのセカンドオピニオン外来

当センターでは、がん診療に精通した専門医が、これまでの経験を活かしながら、患者さんの想いや不安にも丁寧に耳を傾け、よりよい医療の選択を一緒に考えます。患者さん一人ひとりに十分な時間を確保し、納得できるまでお話しいただける体制を整えています。



ご利用にあたってのご案内

セカンドオピニオン外来は、保険診療の対象外となる自費診療です。受診をご希望の方は、以下の点をご確認ください。

- 現在の主治医からの紹介状が必要です。
- レントゲン・CT・MRIなどの検査資料をご持参いただくと、より詳しいご相談が可能です。
- 患者さんご本人が来院できない場合は、ご家族のみでのご相談も可能です。※ご本人の同意書が必要です

迷ったときには、セカンドオピニオンという選択肢もあることを思い出してください。
詳しくは当センターホームページをご覧ください。

予約センター TEL 028-658-5012 受付時間／平日 8時30分～16時30分

https://www.tochigi-cc.jp/outpatient/second_opinion/index.html



当センターへのお問い合わせ (代表) ☎ 028-658-5151

ご予約は以下の窓口までご連絡ください

予約センターのご案内

予約専用電話

☎ 028-658-5012

予約受付時間

🕒 平日 8:30 - 16:30

予約時にお聞きすること

① 診察券番号(受診歴がある方のみ) ② 受診科と医師名 ③ ご希望の日時

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証またはマイナンバーカード、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

● 病診連携に関するお問い合わせ

地域連携チーム

☎ 028-611-5503

平日 ☎ 8:30 から 17:15

● がんに関するご相談

患者総合支援センター・
がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 ☎ 8:30 から 17:00

● がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

平日 ☎ 8:30 から 17:00

外来受付のご案内

外来診療日程表は随時更新しております。最新の情報は公式ホームページをご覧ください。



セカンドオピニオン外来のご案内は、こちらからご覧ください。



当センターは
紹介受診重点医療機関
に指定されています

他の医療機関からの診療情報提供書(紹介状)を持たずに外来受診する場合「特別の料金(選定療養費)」がかかります。

初診 7,700円

※緊急、その他やむを得ない事情がある場合には、「特別の料金」を徴収しないことがあります。

予約センター | ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 ☎ 8:30 から 16:30

交通のご案内

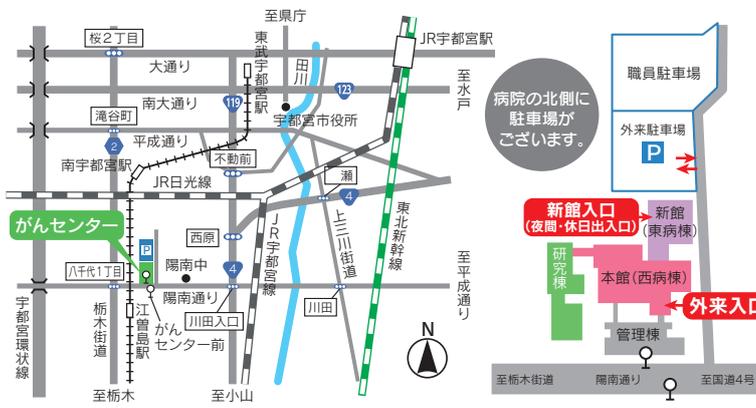
電車・バス

● JR宇都宮線「宇都宮駅」より
→西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗り、「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)

● 東武宇都宮線「江曾島駅」より
→東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗り、「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

自動車

● 東北自動車道「鹿沼I.C.」より
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を越え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)



病院の北側に
駐車場が
ございます。



あいの
Philosophy
And
Humanity
このころ vol. 38

9月号
2025年
9月25日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669



がんセンターの情報は 栃木県 がん 検索 URL <https://www.tochigi-cc.jp>